

# 愛泉会 セミナー

今年度はコロナウイルスの影響で、予定していた研修や視察の多くが中止となってしまいました。そのかわりにオンライン研修会が主流となり、また事業所内での学習会にも力を入れました。

## 権利擁護セミナーを受けて

権利擁護、何度聞いてもとても重い言葉だと思っています。近年、障がい者へ虐待したと報道等で報じられるのを目にして、私たち支援者は日々障がいを持った利用者や接する機会が多く、とても身近に感じること、そして、その度に悲しい気持ちになります。

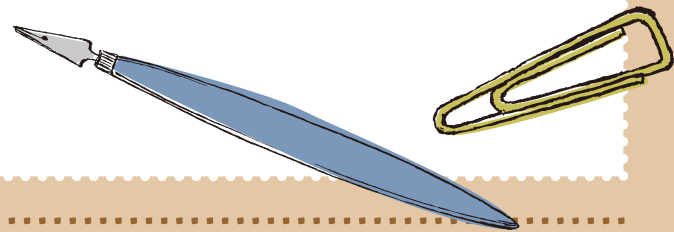
障がいをお持ちの利用者は、自分の思いを上手く言葉に表せなかったり、言葉による反論や抵抗が難しく、特に知的障がいの方は、最も権利侵害を受けやすい人たちだと感じています。利用者の方々と日々支援している中で、時間がない、他にやらなければならない事がある等、私たち支援者の都合で利用者の方々を振り回していることも多々あるなど研修に参加して改めて感じました。

時間に余裕がある時は、利用者へ寄り添い、ゆっ

くりと話しをしたり、隣に座っているだけでも利用者の皆さんは笑顔になってくれます。この笑顔を守るためにどのような支援が一番いいのかわかりませんが、1人ひとりの生活スタイルを考え活動の提供や季節に合わせた服装の準備など当たり前のことから考えて行き、利用者へ寄り添う事を大切にしていきたいと思っています。1日の終わりに今日も楽しい1日だったと思ってもらえるような支援をこれからも探しながら利用者の皆さんの生活を支えていければと思います。

最後に私たち支援者が目の前の利用者一人ひとりをかけがえのない存在として尊重する事を日々思いながら、権利擁護に努めていきたいと思っています。

[デイサポートさくら 支援員 清野 恵美]



## 支援力部門の取り組みについて

向陽園の入所において、余暇部門、環境部門と支援力部門があります。支援力部門は、利用者支援を中心に取り組んでいる部門です。課題がある利用者さんの支援においても、担当職員が一人で悩み、考え支援が進まないケースがありましたが、支援力部門が担当と一緒に、どのような支援が利用者さんに合っているのかを検討し、支援を進めることができるようにサポートをしています。そして、支援力部門と担当とでケース会議を開き、職員全員で利用者さんの支援を検討することで、多くの視点、支援のアイデアに繋がっています。また、支援力部門が主となり担当支援員と協力することにより、チームとして機能することができています。

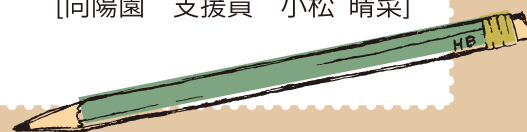
毎月のフロア会議では「なんだあ!? 便利」というお便りを作りミニ勉強会を行っています。また、支援力部門のミニ勉強会とは別に、入所の職員全員で年に数回勉強会も行なっています。内容は、職員へアンケートを取るなどして決めました。それらを、グループで調べて自分たちが講師となり行っています。勉強会を行う上で、参加する学びも



ありますが、自分たちが講師となることで、人へ伝えるために多くのことを学ぶ必要があるため、両面での学びとなっています。「なんだあ!? 便利」においては、支援力向上委員会が各事業所に配布させていただきましたのでご覧いただければと思います。

様々な課題や難しさもありますが、少しずつ利用者さんの良い変化をみることができ、やりがいを感じています。今後も利用者さんがよりよい生活を送ることができるようにサポートしていきたいと思っています。

[向陽園 支援員 小松 晴菜]



## 愛泉会の各委員会より

## 政策委員会について～自覚者は責任者です～

この委員会名、言葉は硬いですが分かりやすい表現にするとこんな感じでしょうか。「事業を通して見えてきた地域の課題を整理し、優先順位を考え、どうすれば良い方向にいくのかを具体的に検討し、良い取り組みの実践は強化し長く継続するための検討をしていく場」という事でしょうか。

この圏域で広域的に事業展開をしている法人として、入所の方々の地域移行と、地域生活支援のために事業を展開してきた法人として見える地域課題が沢山あります。また、その課題は国や他県の状況などネットで比較すると更にその深刻さが浮き彫りになっています。今までは、度重なる制度改正や複雑な事業運営等、各事業者は何とか潮流に乗り遅れまいと運営に没頭して足元しか見えない時期が続きました。仕方のない事です。

しかし、地域福祉と叫ばれて久しいですが、ここ近年の地域福祉は後退や閉塞感が漂います。入所施設のニーズは止まず、グループホームの整備も足踏み状態、ホームヘルプや行動援護等の居宅サービスは明らかに後退しています。私たちの現場の繁忙さは変わりませんが、これ以上先送りに出来ない大切な課題です。先駆者の糸賀一雄氏の言葉に「自覚者は責任者」という言葉があります。課題に気が付いた者の責任として、一法人としては微力ですが住みやすい地域をつくりたいと願う関係機関の皆様と協働で考え行動していけたらと思います。

今後この委員会等を通してお声かけする場合もあるかもしれません。是非、一緒に考えていきましょう。

[愛泉会政策委員長 村上 実]

## 日々是好日

愛泉会で働いて..

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

向陽園 洗濯パート  
多田 真由美



私は向陽園で洗濯業務をしております。入職させて頂いた年は、あの東日本大震災の数カ月前でした。あの頃の園の入所者は、80名と大所帯。停電で洗濯業務が出来ず体育館で2日間、入所者の方々と関わって、やっとお顔と名前、表情が一致したのを思い出されます。

その事がきっかけとなり、よく洗濯室に顔を見せてくれて、園での話や「いつも、ありがとう」とやさしくうれしい言葉を頂くようになりました。あの頃から、心掛けている事ですが、入所者の方々がいつも気持ち良く着衣して頂けるよう、これからも頑張らせて頂きたいと思っています。

向陽園 支援員  
松本 桜



まもなく私が向陽園の支援員として働いて一年が経とうとしています。入職した初めの頃はわからないこと、不安なことが沢山ある中で勤務にあたってました。

そんな中で私が積極的に取り組んだことは、どんな些細な疑問でもすぐに質問することです。不安やわからないことをそのまましておくのではなく、出来るだけ早く解決出来るように先輩職員に質問するようにしていました。ありがたいことに、向陽園の職員はいつでも質問しやすいような雰囲気があり、利用者だけでなく私のような後輩の気持ちも受け止めてくださいます。

私も早く先輩職員のような、様々な人の気持ちを受け止められるような支援員になれるよう、日々頑張っています。

デイサポート天花  
パート支援員  
館山 ますみ



「お母さん薬を探しています」の言葉に心惹かれ、介護員だった私は支援員として職を得、3年半が経ちました。他県から移って来たばかりで、愛泉会も障がい者支援も土地勘も全てゼロからのスタートでした。支援の仕方に戸惑いながらも、職場の方々に恵まれ、なんとか続けられています。

デイサポート天花では、障がい特性の理解、心情理解を基に「利用者さんの想いを大切にしたい」と天花全体での支援(チームアプローチ)を行っています。

20代、30代の若い利用者さんが多いデイサポート天花では、屋外での活動も多く取り入れていましたが、コロナ禍の現在は、密を避けながらの散歩が、大切なリフレッシュのひとつとなっています。

外へ出かけた時の清々しい笑顔、この笑顔の為に、これからも支援をしていけたらと思っています。